

オンラインニュース動画の視聴と政治的知識の関連性

The relevance of online news video viewing and political knowledge

小川祐樹^{1*} 高野雅典² 森下壮一郎² 高史明³

Yuki OGAWA, Masanori TAKANO, Soichiro MORISHITA and Fumiaki TAKA

¹ 立命館大学情報理工学部

¹ Ritsumeikan University

² 株式会社サイバーエージェント

² CyberAgent, Inc.

³ 神奈川大学

³ Kanagawa University

Abstract: In this study, we clarify the effect of online news video viewing on political knowledge. We analyze users' viewing logs and questionnaire responses. The results show that the effect of news viewing on political knowledge depending on the form of the news. Specifically, there was a positive correlation between news viewing and political knowledge, especially for commentary and discussion news.

1 はじめに

ネットメディアの台頭により人々の情報環境は大きく変わりつつある。情報源としてのネットの利用はテレビを超え、メディアとしての存在は大きくなっている [総務省 19]。しかし、情報源に対するテレビ・新聞の信頼性はネットメディアよりも高く、ニュースなどの情報は人々にとっては信頼できる情報を取得できるメディアとしては依然として重要なメディアとして位置付けられる。近年では、これらニュースメディアの環境も様々変化しつつあり、新聞社や放送局が運営するオンラインニュースサイトや、それらをまとめるポータルサイト、動画を配信するオンラインニュースサイトなど様々ある。マスメディアから報道されるニュースは社会や政治に対する人々の関心や政治的知識に影響を与える重要なメディアとされ、ニュースの視聴効果については様々な研究がなされている [Norris 96; Bennet 96; Baum02, 03]。

一方、ネットにおけるニュースメディア形態が様々あるなかで、それぞれのメディアが人々にどのような影響をもたらすのかは重要な課題である。高選択な情報環境のなかでは選択的な情報接触が行われやすく、これにより人々の関心や知識の格差が拡

大されることが懸念される。ニュースサイトのように利用者が能動的に情報を選択するようなメディアでは選択的接触がより顕著になると考えられるが、様々なニュースをまとめて放映するニュース動画のような受動的に受容されるメディアでは、自身が好む情報だけでなく偶発的な情報接触による効果も期待される。特に、オンラインニュース動画といった形態は、モバイル端末によるネット利用や、動画による情報取得が多いこと [総務省 19]、若年層において受動的な情報選択がなされること [保高 19] をふまえると注目すべきニュースメディアと考えられる。

従来の研究では、地上波のニュース番組の視聴やオンラインニュースサイトの視聴が政治的知識にもたらす効果を質問紙調査によって分析した研究は多いが、オンラインニュース動画の視聴効果を客観的な行動ログをもとに分析した研究はない。

本研究では、オンラインニュース動画が政治的知識にもたらす効果を明らかにすることを目的に、株式会社 AbemaTV より提供を受けた視聴者の行動ログデータを利用した分析を行う。具体的には、オンラインニュース動画のユーザの視聴ログと Web による質問紙調査の結果を紐付けた分析を行い、オンラインニュース動画の視聴が政治的知識と関連しているかを明らかにする。

*連絡先：立命館大学情報理工学部

〒525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1

E-mail: y-ogawa@fc.ritsumei.ac.jp

2 関連研究

テレビニュース視聴の効果を政治意識の観点から分析した研究は数多く存在する。テレビニュース視聴が政治参加を促進させることを示した研究[Norris 96]だけでなく、ニュース番組を客観的な事実を報道するハードニュースと、娯楽的要素を含んだソフトニュースとに分類して分析した研究もある。ハードニュースへの接触は政治的関心知識にプラスの効果があること[Holtz-Bacha 01]、ソフトニュースには政治に関心がなかった娯楽的要素を求めた視聴者への副産物的な効果として政治関心を高める効果があることが示されている[Baum 02]。同様の結果は、日本のテレビニュース番組をハード・ソフトニュースに分類した[稲増 09]の研究でも確認されており、特にソフトニュース視聴は政治的知識の低い人々において政治への関心を高めることが示された。このほか、ネット利用やオンラインニュース接触が政治的関心を高めることや[Boulianne 09]、政治関心が高い人がオンラインニュースに選択的に接触することで、さらに政治的知識を高めることなどが示されている[Prior 07]。

これらをふまえると、オンラインニュース動画についてはメディアの形態としては従来のテレビに近いことからテレビの視聴効果と同様の効果が予想される。つまり、オンラインニュース動画の視聴時間が長いほど政治的知識が高いと予想される。

3 方法

3.1 データセット

3.1.1 ニュース動画の視聴ログ

本研究では、株式会社AbemaTVより提供を受けたABEMAの視聴ログデータを用いて分析を行う。ABEMAは、株式会社AbemaTVが運営するテレビ&ビデオエンターテインメントとして展開する動画配信事業であり、独自のニュース番組や生放送番組などの番組を24時間無料で閲覧できるサービスである。配信される動画は、スマートフォン・タブレットに加え、PCやTVアプリケーション(e.g., Apple TV, Google Cast)などで視聴が可能である。本研究で利用する視聴ログは、2019年2月1日～2019年3月7日にABEMAのニュースチャンネルを視聴したユーザかつ、アンケート調査の回答データの提供を承諾した1,031人の視聴ログデータを用いる。なお提供されたデータはユーザ情報を匿名化しており、個人を特定できない仕様となっている。対象とする番組はニュースチャンネルで放映された表1の番組である。

表1：対象とするニュース番組

番組	番組形式	放映時間帯
番組 A	事実報道・解説・討論	平日(夜)
番組 B	解説・討論	平日(夜)
番組 C	解説・討論	平日(夜)
番組 D	解説・報道	週末(夜)
番組 E	解説・討論	週末(夜)
番組 F	解説・討論	週末(昼)
番組 G	事実報道・解説	平日(昼)
番組 H	事実報道・解説	平日(朝)
番組 I	事実報道	平日(終日)
番組 J	事実報道	平日(朝)

3.1.2 アンケート調査

2019年3月25日-3月29日に株式会社マクロミルによりABEMA利用者へオンラインアンケート調査を行った。

3.2. 変数

政治関心

政治関心については既存研究で用いられる質問文と同様に「選挙のある、なしにかかわらず、いつも政治に関心をもっている人もいますし、そんなに関心をもたない人もいます。あなたは政治上の出来事について、どれくらい注意を払っていますか」という質問に対して、「かなり注意をはらっている」～「ほとんど注意をはらっていない」の5段階で回答をもらった。

政治的知識

政治的知識については、政治的知識の構造を分析した[今井 08]、先行研究で用いられている政治的知識[Prior 03, 稲増 09]を参考に質問項目を作成した。具体的には「制度・リーダーに関する4問(司法制度、日本国憲法、行政、首相)」「時事的な争点に関する4問(沖縄基地、毎月勤労統計調査、米朝首脳会談、消費税)」「時事的なスキャンダル・失言に関する4問(麻生太郎、鳩山由紀夫、菅官房長官、明石市長)」のクイズの正答結果をもとに項目反応理論で算出した。その結果、3つの因子(「制度・リーダー」「争点」「失言」)が抽出された。

ニュース視聴時間

視聴ログをもとに各番組の視聴時間合計(秒)のlogを計算した。なお、番組の切り替えは視聴者のザッピングによって行われるため5秒以上の視聴行動のみを対象とした。

表3：政治的知識の規定因（重回帰分析）

変数名	政治的知識 (制度,リー ダー)	政治的知識 (ハード ニュース: 争点)	政治的知識 (ソフト ニュース: 失言)
性別 (1:男性、2:女性)	-.214 **	-.174 **	-.191 **
年齢	.099 **	.173 **	.125 **
政治関心	.280 **	.271 **	.291 **
F1: 番組視聴 (解説・討論系ニュース)	.116 **	.039	.113 **
F2: 番組視聴 (朝・昼ワイドショー)	-.060	-.036	.008
F3: 番組視聴 (事実報道ニュース)	-.041	-.013	-.108 *
R^2	.208	.206	.211

表2：ニュース視聴の因子

番組	F1 (解説・討論 系ニュース)	F2 (朝・昼ワイド ショー)	F3 (事実報道 ニュース)	共通性
番組 A	0.62	-0.05	-0.04	0.34
番組 B	0.59	-0.01	-0.10	0.29
番組 C	0.59	0.07	-0.14	0.30
番組 D	0.42	-0.02	0.18	0.29
番組 E	0.37	-0.06	0.10	0.17
番組 F	0.24	0.16	0.17	0.23
番組 G	-0.06	0.94	-0.15	0.73
番組 H	-0.01	0.42	0.12	0.24
番組 I	-0.15	-0.06	0.87	0.59
番組 J	0.01	0.01	0.38	0.16

4 実験

4.1 手法

従属変数のニュース視聴時間については、番組によって放映形式が異なり視聴者の志向も異なると考えられるため、各番組の視聴時間をもとに因子分析を行った。そして、このニュース視聴の変数と政治関心を独立変数、政治的知識を従属変数とした重回帰分析を行った。

4.2 結果

4.2.1 「ニュース視聴」の因子

ニュース番組の視聴時間をもとに因子分析（主因子法、プロマックス回転、因子数決定：BIC）を行った結果、3つの因子が抽出された（表2）。各因子の番組の特徴をみると、番組の形式が類似する番組が同じ因子としてまとまっている傾向がみられた。

F1は主に夜の時間帯の解説・討論系のニュース番組であり、その日のニュースだけでなく特定の話題に特化した内容や、解説者・コメンテーターによる討論が長時間行われる傾向の番組であった。F2は

朝・昼のニュース番組であり、その日のニュースを報道すると同時にコメンテーターがコメントする形式のワイドショーに近い番組であった。F3は事実報道に特化したニュース番組であった。

4.2.2 「政治的知識」の規定因

政治的知識を従属変数とした重回帰分析の結果を表3に示す。

分析の結果、ニュース番組の形態によって政治的知識との関連性は異なることがわかった。具体的には、解説・討論系の番組において「制度・リーダー」「ソフトニュース：失言」の政治的知識とプラスに関連することがわかった。

5 考察

オンラインニュース動画の視聴については、視聴時間が長いほど政治的知識に効果があるわけではなく、番組の形態によってその効果は異なる可能性が示された。

F1の解説・討論系の番組視聴が政治的知識にプラスの関連があった理由として、これらの番組ではニュースの背景をもとに解説を行うため、制度・リーダーに関する知識と関連がでたのではないかと考えられる。さらに討論系の形態をとる番組でもあるため賛否の分かれる争点や、批判の多い政治スキャンダルを扱うことも多く、これらがソフトニュース知識（失言）などの知識に関連がでたと考えられる。一方で、ハードニュース知識（争点）については関連がみられなかった。これは、これらの番組が特定の話題に特化した番組形態のものが多いことから、番組が対象の知識に関する争点の話題を大きく扱っていない可能性が考えられる。ただ、これについてはより長期的な視聴期間における効果について分析が必要である。

F2の番組視聴においては政治的知識との関連は

見られなかった。これは、これらの番組がワイドショー的な番組であることから、社会・政治などのニュース内容よりも芸能などエンタメ的な内容を志向するユーザが視聴していたため関連がみられなかったのではないかと考えられる。また、F3の番組視聴においてはソフトニュース知識（失言）にマイナスの関連がみられた。これについても、ハードニュースとされる事実報道ニュースの視聴者は娯楽性の高いソフトニュースに関心がなかったためソフトニュースの知識に負の関連がでたのではないかと考えられる。[Prior 03]らの研究では、ソフトニュース視聴者はエンタメ志向が高く、ハードニュースの視聴者はエンタメ志向が低いという結果が示されていることから、本研究の結果もこれを示しているのではないかと考えられる。

以上のことをふまえると、オンラインニュース動画は既存のテレビなどのようにより長く視聴することで知識が得られるというメディアではなく、解説・討論や話題に特化したニュース番組についてのみ、これを積極的に視聴する利用者に対して政治的知識への効果があるメディアである可能性が考えられる。つまり、オンラインニュース動画は従来のテレビ視聴でみられた、とりあえずテレビをつけておくという受動的な視聴スタイルよりも、特定の話題に興味がある人の能動的な視聴によって政治的知識を高めるメディアである可能性がある。このことから、オンラインニュース動画の視聴においては、従来のテレビ視聴の効果でみられた政治的知識の少ない人が受動的な視聴によって副産物的に政治的知識を得るといった効果については限定的なのではないかと考えられる。

6 おわりに

本研究は、オンラインニュース動画の視聴が政治的知識にもたらす効果を明らかにするために、ユーザの視聴ログとアンケート調査の結果を紐付けた分析を行った。分析の結果、ニュースの形態によって政治的知識にもたらす効果はことなることが明らかになった。具体的には、ニュースのなかでも解説・討論系のニュース視聴と政治的知識にプラスの関連があることがわかった。ただし、今回の分析では一時点での調査であり長期的な効果にまでは明らかにできていない。パネル調査などにより長期的な効果についても検討が必要である。

参考文献

- [Baum 02] Baum, M. A.: Sex, lies, and war: How soft news brings foreign policy to the inattentive public, *American Political Science Review*, pp. 91–109 (2002)
- [Baum 03] Baum, M. A.: *Soft News Goes to War: Public Opinion and American Foreign Policy in the New Media Age*, Princeton University Press (2003)
- [Bennet 96] Bennett, S. E., Flickinger, R.S., Baker, J. R., Rhine, S. L., and Bennett, L. L.: Citizens' Knowledge of Foreign Affairs, *The Harvard International Journal of Press/Politics*, Vol.1, pp.10-29 (1996)
- [Boulianne 09] Boulianne, S.: Does Internet use affect engagement? A meta-analysis of research. *Political Communication*, Vol.26, No.12, pp.193-211 (2009)
- [Holtz-Bacha 01] Holtz-Bacha, C., and Norris, P.: "To entertain, inform, and educate": Still the role of public television, *Political Communication*, Vol.18, No.2, pp.123–140 (2001)
- [Norris 96] Norris, P.: Does Television Erode Social Capital? A Reply to Putnam, *Political Science and Politics*, Vol. 29, No. 3, pp. 474-480 (1996)
- [Prior 03] Prior, M.: Any good news in soft news? The impact of soft news preference on political knowledge, *Political communication*, Vol. 20, No. 2, pp. 149–171 (2003)
- [Prior 07] Prior, M.: *Post-Broadcast Democracy: How Media Choice Increases Inequality in Political Involvement and Polarizes Elections*. Cambridge University Press (2007).
- [保高 19] 保高隆之：情報過多時代の人々のメディア選択 -「情報とメディア利用」世論調査の結果から-, Vol.68, No.12, pp.20-45 (2019)
- [今井 08] 今井亮佑：政治的知識の構造, *早稲田政治経済学雑誌*, Vol. 370, pp.39-52 (2008)
- [稲増 09] 稲増一憲, 池田謙一：多様化するテレビ報道と、有権者の選挙への関心および政治への関与との関連: 選挙報道の内容分析と大規模社会調査の融合を通して, *社会心理学研究*, Vol. 25, No. 1, pp. 42–52 (2009)
- [総務省 19] 総務省情報通信政策研究所：平成 30 年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査 (2019)